

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	沖縄県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	平良市立北小学校									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12		
児童数	60	69	63	57	60	59	0	368	22	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」の向上をめざす指導方法の工夫

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<主に2～6年生の算数科>
 本研究は、校内研修に位置付け、全学年が教科・領域全般で進めているが、研究の累積という視点から主に算数科で取り組んでいる。また、本校の児童は、算数科において習熟の程度の差が大きいということや、他教科に比べ学習の系統性が重要視される教科であること等も考慮し本教科を選択した。昨年までは、3年生以上の全児童に少人数指導を進めてきたところ、かなりの児童が少人数指導に好感を示しているというアンケート結果を基に、4年生の指導形態を試行的に類型Aで進め、2年生の児童にも指導方法改善加配教員がかかわれるように実施学年の枠を広げた。

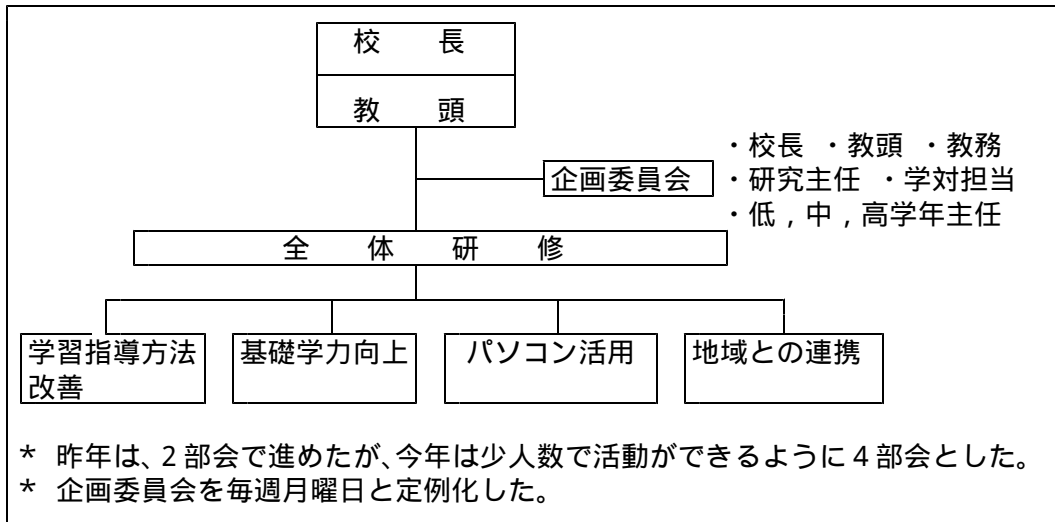
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ：「確かな学力」の向上をめざす指導方法の工夫 研究の見通し 少人数指導，習熟度別指導等のなかで，主体的な問題解決的な能力の育成「百マス計算」・音読・読書・家庭学習等に主体的に取り組ませる。 単元の導入で興味・関心を高め，まとめて補充・発展学習等を工夫する。 研究内容・方法 効果的な少人数指導の在り方 基礎学力の向上をめざす取り組む内容 問題解決的な学習の進め方 自ら学ぶ環境構成の工夫
--------	--

平成15年度	テーマ：「確かな学力」の向上をめざす指導方法の工夫 研究の見通し 少人数・習熟度別指導等のなかで，小グループでの学習を工夫する。 補充・発展的な学習を指導計画に位置付け，個に応じた指導を工夫する。 研究内容・方法 個に応じた指導方法の工夫 補充・発展的な学習材の開発 問題解決的な学習の進め方 評価を生かした指導の工夫 共に学び，自ら学ぶ環境の工夫
--------	---

平成 16 年度	<p>テーマ：「確かな学力」の向上をめざす指導方法の工夫 研究の見通し 各教科の学習場面に、少人数での話し合い活動を位置付ける。 興味・関心に応じた選択学習ができるよう、個に応じた学習環境を工夫する。 研究の内容・方法 教材教具を活用した授業展開 余裕教室を生かした環境整備</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

< 研究全体の成果 >				
<p>仮説1</p> <p>少人数指導，習熟度別指導等の中で，小グループでの学習，問題解決的な学習を工夫し，考えや気づきを共有する場を設定すれば，共に学び合い自ら学び自ら考える子が育成できるであろう。</p>			<p>仮説2</p> <p>補充・発展的な学習を指導計画に位置づけ，個に応じる指導等を工夫すれば，基礎学力が身に付き，確かな学力の向上を図ることができるであろう。</p>	
<p>【研究視点1】 個に応じた指導方法の工夫</p>	<p>【研究視点2】 問題解決的な学習の進め方</p>	<p>【研究視点3】 共に学び，自ら学ぶ環境の工夫</p>	<p>【研究視点4】 補充・発展的な学習材の開発</p>	<p>【研究視点5】 評価を生かした指導の工夫</p>
<p>【研究内容】 少人数指導 教科担任制 T・T 習熟度別指導</p>	<p>【研究内容】 小グループでの学習指導 話し合い活動の深め方</p>	<p>【研究内容】 余裕教室の活用 基礎学力強化月間 漢字・算数検定 音読・読書 百マス計算 家庭学習</p>	<p>【研究内容】 「数と計算」のステップ問題を作成 基礎・基本問題集の活用 マスターシートの活用 発展問題</p>	<p>【研究内容】 評価規準を明確にした年間指導計画の作成 自己評価表 補助簿 学力テスト等 アンケートの作成</p>
【成果】	【成果】	【成果】	【成果】	【成果】

80%の児童が少人数指導を良いと答えている。児童は教科担任制に馴染んでいる算数科においては、習熟度別学習が日常的に行われ、自己選択制による学習形態が児童に受けいられている。

個人で考えた後、小グループのリーダーを中心に話し合うことができた。友だちの発表を聞き、自分の言葉に置き換えて繰り返し発表をすることができた。

11月の一ヵ月間、全校児童が放課後30分のチャレンジタイムを設けて補習学習に取り組み、共に学び合った第2図書室のコーナーに漢字・算数検定問題を準備し、共に学ぶ場とした

「数と計算」のステップ問題を1～30まで用意し、六年間で合格できるように活用した。補充問題としてマスターシートを活用した。

意欲・関心・態度に関するアンケートを実施し、指導に生かすことができた。算数に関するアンケートを年間2～3回実施した。T・K式標準学力テスト(5月)校内基礎学力テスト(11月)

< T・K式学力テスト結果 >

* 数字は平均値

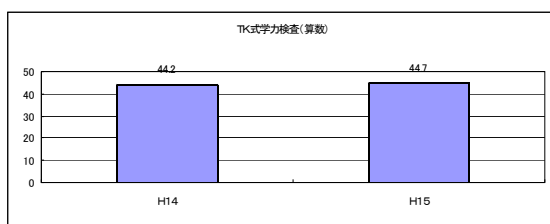
	平成14年度	平成15年度
本校全体	44.2	44.7
4年生	45.0	45.3
5年生	42.6	41.7
6年生	43.1	46.9

【考察】

学校全体としては、0.5上昇した。学年ごとにみると4年生は、0.3上昇し、5年生は0.9下がった。6年生は、「量と測定」が(39.4)と低かったが、全領域でみると、3.8上昇した。今後は、特に量と測定」学習では、算数操作活動を多く取り入れていきたい。

学校全体の2年間の推移

	H14	H15
算数	44.2	44.7

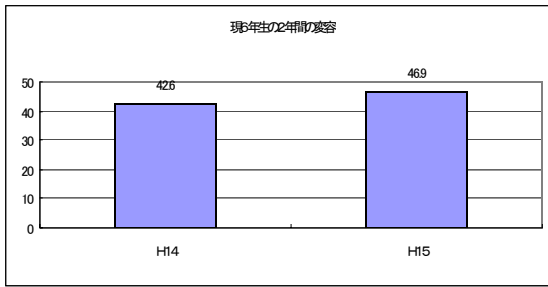


【考察】

学校全体(4・5・6年)では、平均値が0.5上昇した。

現6年生の2年間の推移

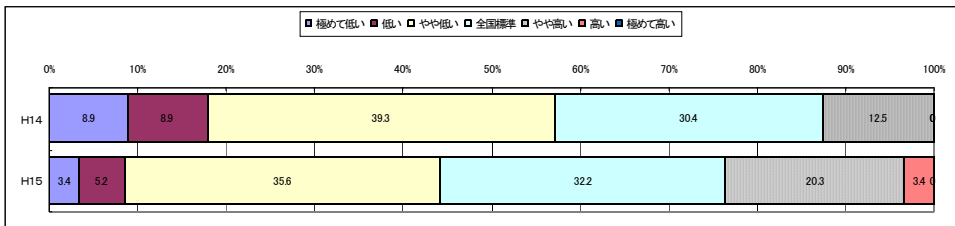
	H14	H15
算数	42.6	46.9



【考察】
 現6年生は、この2年間で平均値が、4.3上昇している。
 平成13年度から、学習指導法改善加配担当と担任が共に指導に当たった結果と思われる。

現6年生の2年間の学習集団の推移

	極めて低い	低い	やや低い	全国標準	やや高い	高い	極めて高い
H 14	8.9	8.9	39.3	30.4	12.5	0	0
H 15	3.4	5.2	35.6	32.2	20.3	3.4	0



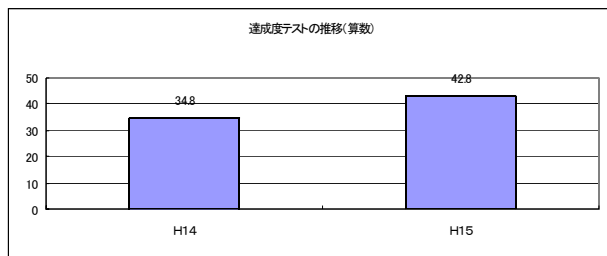
<校内基礎学力・達成度テスト結果>

	平成14年度	平成15年度
1年生		46,0
2年生		41,8
3年生	42,7	39,4
4年生	34,5	35,6
5年生	30.8	30.5
6年生	35,3	42,8

【考察】
 校内基礎学力テストは、昨年県が作成した問題に準じた。1・2年生の問題校内で作成し実施した。6年生は、7.5点と大きく伸びた。

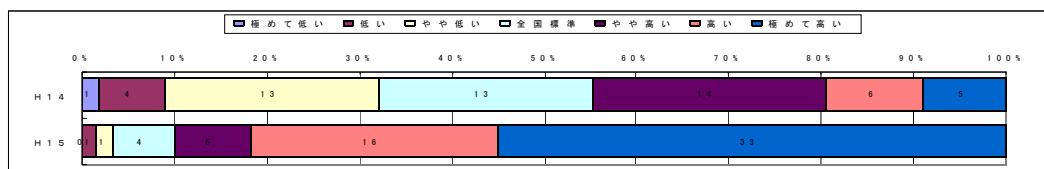
達成度テストの推移

	H14	H15
算数	34.8	42.8



【考察】
 県が実施した達成度テストの結果平均値が8.0伸びた。基礎基本が、定着してきたと考える。

現6年生の2年間の学習手段の推移



【考察】下位の児童が努力し、点数が1桁台がいなくなり、全員2桁台になったこと。

2. 今後の課題

小グループでの話し合い活動や問題解決的学習の効果的な進め方について深めていきたい。
 個に応じた学習環境の工夫を進めたい。(自から学び合う場づくり)
 本校の学力向上推進チャレンジプランを基に、学年で学力向上推進の取り組みを工夫していきたい。

学力等把握のための学校としての取組

T・K式学力テスト(年間1回5月実施)
 校内基礎学力テスト(年間1回11月実施)
 算数科に関する情意面のアンケート(年間2~3回実施)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

本校の「グランドデザイン」としてパンフレットを作成し、PTA 総会、常任委員会、授業参観等で配布予定。
 市の学力向上対策実践報告会で報告予定。
 校内授業研究会に近隣の指導法改善担当者と共に研修会を持ったり、筑波大付属小学校の講師を招聘し授業研究会に参加してもらったりした。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7~12学級
 13~18学級 19~24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無